



むなかた大節分祭



平成ノ大造営

時満ちて
道ひらく

二月三日、宗像観光協会(会長 小林正勝)との共催による「むなかた大節分祭」が行われ、「福」を授かるうとする多くの参拝者が参集し、寒さを感じさせない熱気で包まれた。

本来、節分とは季節の分かれ目を指す言葉で、立春・立夏・立秋・立冬の前日の意であるが、よく「立春をもって年とり」といわれる通り、旧暦では立春を一年の始めとしており、春の節分を特に重視していたことから、今では立春の前日のみを意味するようになった。

二月一日、氏子青年会の奉仕により、例年本殿横に豆打式の特設舞台を設置しているが、本年は本・拝殿修復工事に付き、齋館前の広場に設けられた。

二月三日は曇天ながらも寒さは和らぎ、穏やかな日和となる。



鳴弦の儀

余滴

「みな人のこころもみがけ千早ぶる神のかがみのくもる時なく」続後拾遺集にある第九十六代醍醐天皇の御詠である。神の鏡の曇る時がないように皆人の心も磨いて、常に曇りないようにすべきという意味である。神が清明正直の徳を第一として教えられているに、人も常にそうした心を持ち得るように努力せねばならず、ここに清浄・正直の二徳が神の本来の姿である意が知られる。神の心に照らして反省の念を常に持つことが、自分の心の汚れを毎日拭き去ることになる。清浄・正直の二文字を心の守り札として生きる生き方がこれに示されている。間もなく東日本大震災発生より早三年となる。震災直後の日本人の美しい姿勢は世界より「世界の奇跡」とまで絶賛され、改めて日本人の美徳、そして様々な社会環境の在り方が見直された。しかしその思いや、被災地復興に対する関心はやや風化してきてはいないだろうか。そんな中、復興の為の資金を不当に着服する輩も出だしている。まだに行方不明者は三千名近くを数え、また避難者は二十万人以上のぼる。改めて被害の大きさに慄然とする。各地で復旧・復興は進んでいるが、その進捗度はとても速いとはいえない。物的な復興はもとより被災地の方々の心の平穏が一日も早く訪れることを我々は継続的に曇りない心で折り続け、当時世界が、そして日本人自らが思い起こした日本人の美しい精神を取り戻すべく、心の鏡を磨き続けたい。(長)

神具・装束・授与品
井筒

装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
フリーダイヤル 0120-075-980
福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401
フリーダイヤル 0120-055-092
授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組
〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567



定刻午前十一時、仮本殿にて節分祭斎行。責任役員・氏子総代会・消防団など豆打式奉仕者を始め、氏子会評議員会の方々が参列される中、高向宮司が災難消除・延命招福を祈念する祝詞を奏上、次に神職二人が仮拝殿の左右に分かれ、追儺神事「鳴弦ノ儀」を行い、桃弓・葦矢にて一人は天に



ろうと集まった多くの参拝者は高宮参道に列をなした。先ず子供達への豆撒きが行われ、子供達の黄色い歓声が神苑にこだました。引き続き

向け、もう一人は地に向けて矢を三度射る所作をし、弦を三度鳴らし天地の邪気を祓い清めた。祭典後、神職・豆打式奉仕者は齋館前に設営された特設舞台に移動し、高向宮司が一年の無病息災を祈念し「鬼は外 福は内」の発声と共に福豆が撒かれた。今年の福を授か



豆を撒くスターフライヤー客室乗務員とサニックスブルースの選手



節分祭 祭典

春まつりの御案内

春季大祭を下記行事日程で斎行致しますので、皆様方お誘いの上御参拝下さいませよう御案内申し上げます。



主基地方風俗舞

- ◆3月31日(月) 午後 5 時 総社地主祭
- 午後 6 時 宵宮祭
- ◆4月 1 日(火) 午前11時 一日祭(氏子奉幣・主基地方風俗舞・浦安舞)
- ◆4月 2 日(水) 午前11時 二日祭(海洋神事功労者表彰)
- 午前11時40分 宗像護国神社春季大祭
- 午後 2 時 高宮祭、第二宮・第三宮祭、交通安全講話祭
- 献茶祭(南坊流・花田社中)

建国祭齋行

寒さ厳しい二月十一日午前十一時、多くの参拝者が見守る中、仮本殿にて我國の誕生を祝う建国祭が齋行された。

神武天皇建国以来の国体護持と皇室・国家、国民の弥栄を祈念する祝詞を高向宮司が奏

上、続いて巫女による浦安舞奉奏、各代表者が玉串拝礼を執り行い、祭典は滞りなく終了した。

我が国誕生の日である二月十一日はもとの「紀元節」、現在では「建国記念の日」として、



浦安舞奉奏



宮司祝詞奉奏

「建国をしのび、国を愛する心を養う」の趣旨ものと全国各地でさまざまな神事や式典等の奉祝行事が行われている。しかし、その一

方では奉祝反対の集会も目立って行われており、嘆かわしいばかりである。

日本には「昭和」や「平成」と呼ばれる「元号」と、神武天皇が橿原の地にて即位された年から続く「皇紀」と言う、我が国独自の年号が二つあるが、現在各界では西洋暦の表記が主流で、生活に於いて一番身近な暦から独自の文化が排除されつつある。これを認める考えの主体はグローバル化を理由としているが、世界に目を向けてみれば、各文化圏、各国独自の暦を持つ国も多い。勢力の強い文化に迎合し独自色を無くす事は、国際化ではなく、文化の侵略である。真の国際化とは、各国が独自の文化を誇りに思い保持することではないだろうか。国際化を言い訳にした独自文化を軽んじる流れの中で、心ある国民は我が国の歴史・伝統を後世に伝え、継承に努めなければならない。

平成二十六年 宗像大社海洋神事奉賛会 初会合

一月三十日、宗像大社海洋神事奉賛会の初会合が宗像漁協 田中勇司組合長、沖・中両宮奉賛会 沖西敏明会長をはじめ漁協各支所・水難救済会代表の方々十二名出席の下、齋館にて開催された。

午前十一時より仮本殿にて大漁祈願祭を齋行、終了後会議に入り「若布献上」「秋季大祭みあれ祭」について審議された。

宮中への若布献上は、例年宮司と随行神職一名、各漁協より推薦された二名の計四名



で参内しており、本年の献上者は大島・鐘崎より各一名ずつ選定頂くことが決定した。関係者より現時点での若布の生育状況が順調であることが報告され、例年通りの献上ができる事が確認された。

次に「みあれ祭」について審議され、近年の奉仕船について議論され御神幸にふさわしい体制作りをする旨、決定し初会合は滞り無く終了した。



第40回 文化財防火訓練

文化財防火デーの一月二十六日を前に、二十四日、今年で四十回の節目を迎えた、恒例の文化財防火訓練が、宗像大社自衛消防団・宗像地区消防本部・宗像市消防団(第三・十・十一・十三分団)・宗像市女性消防団から約一〇〇名が参加し行われた。

例年、本殿周辺にて行っていた消火訓練は、平成ノ大造営による修復工事のため、本年は第二駐車場から出火し、重要文化財の本殿・拝殿、また、国宝や重要文化財を収蔵展示する神宝館に火勢が迫っている想定で行われた。

午前九時五十分、火災を発生



祈願殿への一斉放水

見した神職が、社務所に連絡し、社務所から一一九番通報。職員は直ちに第二駐車場に駆けつけ、巫女と女性消防団はバケツリレーを開始、神職・管理員は可搬式ポンプを使い心字池よりホースを延ばし、地元消防団と共に放水を行い、初期消火にあたった。続いて、折からの強風により祈願殿に延焼拡大した想定で、午前十時、宗像地区消防本部・宗像市消防団の各消防車



巫女と女性消防団によるバケツリレー



神職と地元消防団による放水



救命講習

両がサイレンを鳴らして第一駐車場に集結。各隊は統制のとれた動きで配置につき、祈願殿に向かつて一斉放水を開始、本番さながらの消火活動が繰り広げられた。

消火活動終了後、訓練参加者は第一駐車場に集合し、宗像地区消防本部消防長門脇豊氏、宗像市長谷井博美氏による講評がなされ、高向宮司が防火訓練の御礼挨拶を行い、訓練が終了した。

また、職員の防火、救命意識向上のため、同日午後二時より、宗像地区消防本部の指導による救命講習を祈願殿にて開催し、消火器、AED(自動体外式除細動器)、心肺蘇生の方法を約二時間にご指導いただいた。

文化財防火デーは、昭和二十四年(一九四九)一月

二十六日、世界最古の木造建築である法隆寺金堂の壁画が焼損したことを契機に、文化財保護のため、さらには一年の内で一二月は最も火災が発生しやすい時期であるというところで昭和三十年に定められ、以来、毎年この時期には文化財所有者・各関係機関が協力し、文化財防火運動を行っている。当大社では昭和四十六年に斎行された「昭和の大造営」を機に毎年実施するようになり、今年で四十回目を迎えた。当大社が収蔵する貴重な文化財を守り伝えるためにも、今後も消防設備の充実、職員の防火意識の向上を今までの以上に図らねばと思う。



訓練後の講評・御礼挨拶



第2駐車場に駆けつける女性消防団

時満ちて道ひらく 造営日記 ④

本殿周り、拝殿屋根内部の修復も進んでおりますので、ご報告致します。
～工事進捗状況は左記の通り～



【拝殿外壁板】古胡粉は完全にに取り除き、塗り直す。



【本殿縁板】高欄を解体したところ、地覆下端部の腐朽が著しかったので、縁板も解体補修となった。



【拝殿内部】化粧裏板の掻き落とし作業中。



【縁板修復中】板先の腐朽が多く見られる。可能な限り、補修を行い再用に努めている。



出光興産(株) 外国籍新入社員研修

グローバル化が進むなか、出光興産でも外国籍社員の採用を進めており、去る一月二十日、一泊二日の行程で、外国籍新入社員男女各一名、引率者一名の計三名が参加し研修が行われ、創業者・出光佐三氏が大切にしてきた「日本人のこころ」を体感していただいた。研修では白衣・白袴を着装し、祭式作法や神道に関する講義を受け、夜には鎮魂を行い、慣れない正座で一時間の間、日頃の喧騒を忘れ精神を集中していた。翌日は早朝より境内清掃を行い、研修終了奉告祭に参列、その後、大島に渡り、中津宮なども参拝した。この研修が、今後の活動の一助になることを願いたい。



研修終了奉告祭にて玉串を捧げる研修生



研修生の感想

潤滑油部潤滑技術一課

胡方旭

「中国人である私は、神社に対して複雑な気持ちを持っていました。しかし、今回の研修で神社、神道のあり方が、日本人の自然や物を大切にす文化に繋がっていることがよく分かりました。また、宗像地方が古くから日中国交の窓口であることも知った。今後、日本文化の良さを体得し、世界に発信していくことが私の使命と感じている」。

潤滑油部潤滑技術三課

李楊

「入社して十ヶ月経ったが、日本文化の理解が浅いことに悩んでいたのですが、とても良い機会となりました。鎮魂ではやがて自分の呼吸が聞こえ、そして自分との対話が始まりました。こうした瞑想の時は、自分を高めるために今後必要であると思っただけでなく、正座三十分は厳しかったが、日本人の忍耐も体感でき、今後つらいことがあっても頑張っていこうと感じました」。

薄田 尚徳	内納 一朗	内田 清二	内田 高根	内田 重和	内田 孝道	内田 富彦	内田 治男	内田 実	内田ミヨシ	内田 康弘	内田 良子	内山 欣尚	植津 満照	宇津宮博充	馬嶋 隆男	馬目浩太郎	梅田 晃司	梅田 正實	梅田 哲弘	梅田 正幸	梅本 妙子	梅本 武則	浦田 邦慶	浦田 博	占部キミエ	占部 京子	占部 清文	占部 金一	占部 邦彦	占部 公徳	占部 興喜	占部サグ子	占部 茂明	占部 淳也	占部 斉			
占部 象助	占部 則次	占部 正毅	占部 智重	占部 秀隆	占部 博文	占部 文章	占部 経徳	占部美代子	占部 隆男	瓜生 秀男	漆谷 重利	漆谷 信一	江口 榮一	江口 良和	江坂 洋子	遠藤登代子	遠藤 眞二	遠藤 洋二	大石 正明	大江 勲美	大江 シサ子	大江 鉄繁	大江 秀一	大賀 直人	大神 幸雄	大神 和也	大久保 悟	大黒 茂	大迫 稔	大下 公子	大島 清蔵	大島 千壽子	大島 寅次	大島 美恵子	大隅 一穂			
大瀧 俊幸	大竹 昭男	大竹 光	大竹 弘司	大谷 一男	大塚 カツ子	大塚 宗延	大塚 恵彦	大西 長生	大庭 孝子	大野 宗康	大野 文子	大野 文子	大森 裕春	大森 芳喜	大山 金治	岡崎 眞悟	小方 重利	岡田 薫	岡田 キクエ	岡田 清之	緒方 国光	緒方 征二	岡田 政敏	岡田 正教	小方 秀人	小方 万紀子	緒方ミドリ	小方 實	岡田 祐一	岡田 祐介	岡田 龍起	小方 和子	岡野 和歌子	岡野 和人				
岡部 恭二	岡村 朝美	岡山 幸一	岡山 文子	小川 健	沖野 敏明	沖野 松江	奥 眞司	奥 象二	奥 虎威	奥 光男	奥 正彦	奥 恒久	奥野 保明	奥野 文子	長崎 俊之	尾崎 義治	尾澤 義輝	尾園 シゲ子	尾園 静枝	尾園 正路	尾園 節夫	尾園 隆	尾園 辰夫	小田 英俊	小田 克己	小田 順美	小田 哲治	小田 敏正	於保 眞吾	越智 裕文	小辻 八郎	乙藤 木綿子	乙藤 サカエ	乙藤 朋生	乙藤 尚司			
小畑 明正	重田美智子	重水 隆夫	小山 晃宏	御所フミエ	尾野 敏治	加賀田昌子	笠原 政臣	梶木 重孝	梶木 俊典	梶木 久哉	梶谷富士雄	梶野 国博	梶原 清司	梶原 五月	梶原 忠雅	梶原 智昭	梶原 史枝	梶原 正雄	梶原 道忠	葛西 明	片山 英紀	片山 弘毅	片山 茂生	片山 忠和	片山 直利	片山 務	片山 久志	片山 弘幸	片山 恵	勝田サツ子	加藤義志登	河東 清一	加藤 幸子	加藤 三昌	加藤 信義	加藤 敏澄		
金子 悦子	金子 信義	金田 春男	金村 豊長	金本 富吉	樺島 康信	釜瀨 勝之	釜瀨 計	釜瀨 新市	釜瀨 則之	釜瀨 博志	鎌田 和正	神代 正敏	神谷 建一	神谷 弘子	神谷 和子	神谷 和子	神谷 和子	神谷 和子	神谷 和子	神谷 和子	神代 宏	神山 義信	神山 武樹	神山 光一	神下 東下町一組	神原 智昭	梶原 史枝	梶原 正雄	梶原 道忠	梶原 五月	梶原 忠雅	梶原 智昭	梶原 史枝	梶原 正雄	梶原 道忠	梶原 五月	梶原 忠雅	梶原 智昭
川嶋 ミツコ	川島 明人	川島 裕一	川島 芳雄	川島 義隆	川島 隆	川添 大吉	川地カズエ	川波 昌義	河野 一清	河野 好文	河野 辰也	河野 博三	河野 道弘	河野 安弘	河野 好伸	河野 隆和	河野 茂喜	川原 信義	川原 文雄	川原 光明	川元 繁	川元 利夫	川地 鈴雄	菊本 兼二	岸田 清	岸田 忠男	木下 学	北園 一美	北原 肇	河内 信義	川上 節子	川口 明	川口 茂則	川嶋 政一	川嶋 幸史	川嶋 政美	河島 春樹	
木林 哲夫	木原 久蔵	木藤 幸枝	木藤 繁	木藤 昇一	木藤 伸啓	木藤 哲也	木藤 徳隆	木藤 泰子	木村 欽一	木村 公仁子	木村 健次	木村 茂俊	木村 千鶴	木村 敏幸	木村 初江	清家 庄市	清武 恒男	清原 富士男	桐 昭寛	楠 敏子	楠 保雄	楠 治恵	楠根 義和	工藤 皖士	國澤 博	久保 義典	久保 湧一郎	久保 永哲雄	久保 實	熊谷 一成	熊谷 建	倉田 美登利	倉田 達也	倉谷 榮子	倉谷 勇治	倉本 勇		
倉元 盛悟	倉元 盛悟	倉元 俊一	栗田 信子	栗原 邦廣	栗原 直	黒木 裕美子	黒木 功	黒木 一宏	黒瀨 誠一	黒瀨 誠一	加来真紀子	鍛田 勲	桑名 辰男	桑名 徹	桑野アサノ	桑野 静男	桑野 節雄	桑野 敏夫	桑原多津子	桑原キミエ	桑本 眞	小出 利己	小出 福志	高石ユリ子	高木 宏幸	高木 幸	高木 幹子	高巢 和彦	高瀬 久	高田 光臣	高梨 康生	高野 聖勝	高野 昭俊	高橋 重行	高橋 輝之	高橋 毅	高橋 享	
高橋智佐子	高橋彦次郎	高橋 眞	高橋 實	高橋 強	高橋 幸	高宮 幸信	高宮 末兎	高宮 正也	合屋 猛敏	高山イワ子	高山 剛	高山 秀喜	高山 浩明	高山 優美男	高山 靖生	古賀 輝文	古賀 孝茂	古賀 政則	志岐 正宏	志手 陽一	心を寄せる二住良	小嶋 紹男	小嶋 信昭	小嶋 武彦	小嶋 達雄	小嶋 智	小嶋 敏治	小嶋 敏幸	小嶋 久幸	小島 義人	小島 安夫	後藤サグ子	後藤 正二	小西 晴雄	小西 稔	濃野 聖晴	許斐 秀男	

櫻井博	櫻井小夜子	坂本光世	坂元美佐子	坂本守正	坂本妙子	坂本征輝	坂丸豐子	魚住正美	魚住工子	坂口太郎	榊長光	酒井道子	境政則	酒井幸雄	齊藤美智子	齋藤光	齊藤静江	齊藤政江	近藤多賢	近藤悦子	權田芳之	權田司	權田悦子	權田一実	小山博	小柳興隆	菰口邦枝	小室豐子	駒水操	小副川ハマ	小林泰一郎	小林照二郎	小林幸雄	小林寿雄	許斐芳幸		
七田茂美	下妻憲	下岡幸子	舌間正勝	志田房男	茂呂美智子	繁永喜志子	重松尚邦	重松年春	志岐和彦	志岐政美	志岐茂則	塩川安之	塩川正基	塩川耕二	三谷捷明	澤田吉苗	佐矢野スミエ	鮫島弘一	真田英信	里元利弘	佐藤充宣	佐藤政利	佐藤寛文	佐藤純治	佐藤賢二	佐藤輝男	貞弘義典	佐田篤俊	笹田光造	佐々木正昭	迫則夫	酒瀬川勲	櫻井義正	櫻井嘉子	櫻井洋一	櫻井優三	
白木隆生	白木喜次	白木秋好	白木吉久	白石万幸	白石晴美	白石達己	白石孝廣	白石公一	白石末子	織戸ヤス子	小畑辰行	小畑俊一	小畑旭	正野好行	松濤義徹	宗岡勝彦	下田省二郎	清水修	嶋村博子	嶋崎玄洋	島居春喜	柴田良己	柴田洋一	柴田祐治	柴田はづ子	柴田平	柴田清隆	柴垣稔	篠原廣志	篠原大海	篠塚ハルヨ	篠崎ヨシ	篠崎茂文	篠崎達夫	室園良雄	七田龍彦	
立石信子	副山憲治	園田正治	添田喜久夫	添田泰憲	副田雄一	添田昌幸	添田真伸	副島保	栗原芳子	千々和勉	関谷幸太郎	西本雅治	成清正路	角本巖	角岡ミヤ子	角尚徒	須藤誠秀	須藤敏照	須藤憲章	進藤明範	杉田岩藏	菅原和寛	末次良彦	末次博	末延誠士	末弘之	新川尚人	新海桂子	白貝和子	次郎丸友昭	白谷俊弘	白木喜邦	白木義弘	白木正則	白木日出樹	白木信文	白木恒美
瀧口一二三	高倉義博	宝蔵ツギ	高山義明	高山秀美	高山秀登	高山時春	高山時夫	高山キリ	高山清志	高向敏治	高向重則	高宮史郎	高宮邦敏	高宮清孝	高原寛司	高橋剛志	高橋憲一	高野博一	高野徳義	高辻泰三	高祖多太彦	高島亮一	高崎洋	高崎勇	高木邦彦	高木伸夫	高木隆義	高尾功一朗	平本義美	大圃豊	大中ユキエ	大滝節子	大滝政信	立石雄一	立石秀則		
竹山八十子	武丸正昭	武丸トミカ	武部健治	武藤欽生	竹原恵子	竹ノ内静人	竹添アサエ	竹島ふみえ	田口和明	瀧口和彦	瀧口和人	瀧口和久	瀧口龍馬	瀧口良治	瀧口良和	瀧口康則	瀧口眞子	瀧口寛彦	瀧口浩明	瀧口久子	瀧口保夫	瀧口保孝	瀧口武尚	瀧口千春	瀧口スギ	瀧口純	瀧口幸男	瀧口利雄	瀧口君夫	瀧口義文	瀧口キク子	瀧口勝	瀧口嘉代	瀧口和彦	瀧口悦生		
田中千鶴	田中征光	田中孝一	田中則嘉	田中清和	田中政幸	田中清和	田中俊巳	田中次郎	田中静子	田中貞子	田中耕平	田中健治	田中勝美	田中勇司	田中勲	田中昭次	田中里枝	立石裕司	立石久義	立石一智	立石智	立石康彦	橋美代子	橋康彦	立花久直	立花純	立花幸男	立花直春	立花硯雄	立花和良	橋俊幸	田代義道	田代稔	田島信之	田島唯義	田子森茂美	田志宗次
田原敏美	田原久子	田原政幸	田原信行	田畑仁	田畑治男	田畑清巳	田ノ口尚信	田上優	田上テイ子	田上巧	谷口喜春	谷口哲二	谷口チツ子	谷口研二	谷譲	田邊治美	田中喜代美	田中良幸(陵厳寺)	田中良幸(田熊)	中山義昭	田中豊	田中泰正	田中康夫	田中美佐子	田中政代	田中正保	田中文八郎	田中政弘	田中直春	橋和良	田代俊幸	田中久江	田中伴次郎	田中八十馬	田中長子	田中直行	田中時宗
鶴上民生	鶴根重	坪野重雄	綱脇良也	綱脇洋子	綱脇光	綱脇和久	土橋眞道	土田孝	土性義知	土性政俊	土性24組	辻野禎子	辻弘二	辻勇祐	辻勇	塚本英雄	陳錦端	長一男	中山智弘	中元能子	千原義男	小門満智子	小森孝則	小森純良	小樋利昭	小樋勝美	小田良治	小田康夫	小田平男	小椎尾満江	小浦美智子	田村忠	垂水義家	玉利一美	田部井孝次		
中澤よしえ	中里史郎	中川マツ子	中川幸儀	中川清隆	中川一	中岡政剛	長浦悦雄	内藤美千代	ドルチェ	豊福義文	豊福秀人	豊福達也	豊福貞義	豊永萌	友末吉弘	富久龍彦	富金原初野	十時博一	床嶋武士	徳弘行安	徳永秀子	徳永正治	徳永建一郎	徳井輝明	時安豊志	時安正明	堂蘭菊子	東郷克己	東郷康夫	出利葉健二	寺澤武	寺崎民子	寺尾元子	寺尾憲彰	出水玲子	的野志都緒	

中野茂信	中野幸子	中野久美子	中野吉人	中野勝幸	中野克徳	中野和志	中野一子	中野行雄	中野一	中西弘一	永友勝義	永富智昭	中富文枝	中富清美	永田萬享	永田宏遠	永田順之助	永島豊	中島守人	永嶋又次郎	永嶋正憲	永嶋雅雄	中島マキヲ	永嶋弘康	永嶋ナツ子	中島智範	永嶋貴之	中嶋互	永嶋信利	永嶋正	中島淳一	永嶋シゲ子	永嶋公雄	永嶋憲一	永嶋邦博	永嶋吉勝	永嶋晃一	
中野茂信	中野幸子	中野久美子	中野吉人	中野勝幸	中野克徳	中野和志	中野一子	中野行雄	中野一	中西弘一	永友勝義	永富智昭	中野トミ子	中野雅敏	中野源吾	永野道雄	永野美智雄	中野道明	中野正幸	中野昌裕	中野正利	中野雅泉	中野フサエ	中野博文	中野英邦	永野秀昭	中野暢子	奈賀野等	中野常正	中野千枝子	中野忠幸	中野武	中野隆	中野信己	中野俊宏	中野順		
中山智照	中山輝茂	中山定美	中山圓治	中山敬二	中山千鶴	中山進	中山幸弘	中山志津子	中山篤信	中村芳博	中村泰隆	中村モモエ	中村美津子	中村美佐子	中村正秋	中村誠	中村弘志	中村博文	中村廣中	中村春子	中村初雄	中村豊治	中村敏明	中村哲一郎	中村常樹	中村辰三	中村達猪	中村忠之	中村孝信	中村隆	中村増水	中村進一	中村丈助	中村讓二	中村俊彦			
野口英信	野口友美	野口照代	野口孝久	野口清隆	根本今朝男	日南利幸	日南輝男	西山末生	西山友理	西村照子	西村純一	西村基弘	西村和宏	西村エミ子	西田栄子	西崎三千代	西川哲洋	西尾晴行	西尾建二	西流太郎	西さえ子	西健育	縄田朋子	榎崎正義	鍋山俊明	鍋山毅	鍋山計	七ツ矢文字	灘谷武士	中山芳宣	中山博登	中山誠一	中山修一	中山浩二	中山憲司	野口洋子		
長谷川信夫	長谷川照光	長谷川勝美	長谷川和幸	橋本哲士	橋本玉枝	橋本太郎	橋本信	壹岐元彦	壹岐利光	橋田純也	橋田正徳	萩原啓介	萩尾正巳	萩尾勝美	野本美恵子	野村不二男	野村延子	野村清人	野村清之	野村勝子	野村正樹	野間稜子	野入好文	野中義博	野中守正	野中宏進	野中ナミ子	野中ツネ子	野中悦子	野田誠一郎	野田誠一	野田修一	野田浩二	野田憲司	野口洋子			
花田澄子	花田進	花田章	花田純子	花田順一	花田静美	花田茂見	花田茂治	花田茂子	花田知一	花田三千年	花田浩一	花田健治	花田健司	花田清巳	花田清一	花田清	花田利秀	花田義徳	花田義晴	花田加代子	花田克彦	花田勝信	花田和明(土六)	花田和明(河東)	花田重美	花田明美	花田彰徳	花田亮	花田一利	服部裕貴	八波健二	八波健二	畑中幹信	畑博一	秦正昭	秦英一	長谷川康徳	
花田満弘	花田正康	花田誠	花田マイ子	花田福男	花田寛之	花田弘幸	花田博幸	花田廣実	花田広明	花田秀幸	花田英司	花田久子	花田久雄	花田初男	花田信幸	花田長文	花田長美	花田智彦	花田トシ子	花田敏彦	花田利樹	花田徳義	花田哲也	花田務	花田正徳	花田正文	花田正俊	花田忠人	花田忠夫	花田正三	花田工	花田巧	花田高則	花田孝浩	花田隆夫	花田則昭	花田千年	
林仁徳	林純男	林勝巳	林一敏	早川芳昭	早川徳寛	早川剛弘	早川正純	早川正史	早川毅	早川孝	早川信孝	早川祥三	早川寿和	早川源司	早川和子	早川輝	早川重則	早川歌子	濱野一義	濱野雄介	浜野ヒサエ	原ミエ子	原浩	原精子	原幸彦	原宜賢	原和子	原重司	葉山興人	早田博行	林隆夫	林和子	林正治	林正波	林太市	林鉄也	林千次郎	林政秋
藤井和美	藤直治	藤艶子	藤健次	福森三恵子	福原英子	福田幹久	福田文男	福田玄哲	福嶋フヂノ	福嶋光志	福嶋昌昭	福崎則之	福崎辰彦	福崎隆裕	福崎好文	福岡忠	深田洋文	深田ヤス代	深田国彦	深田重信	深江義忠	広田道則	廣田千秋	廣田英吾	廣橋砂雄	廣田實	平山明春	平田恒敏	平田スミ子	平田昭夫	平田茂實	平井浩文	姫野賢一	檜原純	秀田俊彦	肘井悟	久野朋博	

藤井嘉太郎	藤井正義	藤井成政	藤井卓三	藤井正司	藤井秀勝	藤井和彦	藤岡須賀子	藤岡友和	藤岡宣重	藤川ふくゑ	藤崎志磨子	藤澤昌弘	藤島辰馬	藤瀬秀樹	藤瀬和敏	藤田清実	藤田英敏	藤田松子	藤田良子	藤野梅乃	藤野嗣泰	藤原武利	藤本敏明	藤原道康	藤原吉満	船木九州男	船津義樹	船津榮喜	船津猛	船津富子	船津芳博	船津和道	古江正次	古川一三	古川二三	古川一男	古川賢二	古川昌義
古田桂一郎	古田次起子	古田洋之	古田一弘	古田英臣	古田清人	古田進	古田健	古田秀俊	古田文子	古田正之	古田未明	古田元	古田隆之	古田剛一	古田利文	古田智貴	古田康生	古田允子	細川和治	穂束和治	堀哲夫	堀豊治	堀洋子	堀武人	堀克己	堀勝己	堀辰幸	堀秀和	堀幸夫	堀英美	堀章浩	堀千壽子	堀隆雄	堀浩昌	堀誠	堀康		
前原正夫	前山文人	牧一雄	牧敏治	牧光男	牧康弘	牧俊郎	真子弘道	真武健治	真武正	増野哲弘	増野雅士	眞武一俊	眞武多美子	眞武富幸	町家カフエ	鎌倉宗像店	松井善徳	松井英雄	松浦健三郎	松江智	松尾英和	松尾敬治	松尾栄一	松尾優	松尾隆雄	松尾巧	松尾治子	松尾弘子	松尾博徳	松尾和雄	松岡幸四郎	松岡秀一	松川浩樹	松木末春	松隈敬	松崎太蔵	松崎光幸	
松崎好美	松澤克政	松下敏生	松下ミツヨ	松島恵美子	松田佐津枝	松田希善	末次寛	松永寛二	松永光明	松永恒則	松永洋	松野嘉信	松野千鶴	松原欽祢	松原久男	松久公嗣	松本重信	松本カズエ	松本浩二	松本高芳	松本肇	松野敏雄	松野光浩	松野久嘉	松野欽一	松野沢子	松野英敏	松野洋	眞武利道	眞武慶一	眞武直一	守田知乗	丸田起代子	水上信弘	水上政昭	水上達朗		
水上秀文	水上守	水田知義	水野成人	水野千代乃	溝野忠猛	溝部初男	三刀屋信子	南勝弘	南義行	南学	南泰弘	南陽二	嶺千鶴子	嶺建記	実松美江子	宮井利雄	宮内謙一	宮崎忠夫	宮崎直也	宮崎恒樹	宮崎博雄	宮崎正行	宮崎善弘	宮崎鶴子	宮崎康文	宮本清孝	宮本貞俊	宮本賢吾	宮本圭輔	宗俊勝秋	向野久重	向野清子	村井博信					
村上友繁	村上伸一	村上道行	村上美智子	村上ヨシ子	村田英城	村田桂司	村田憲次	村田省三	村田春治	村田良之	村田正二	村山稔	村山隆一	飯盛邦男	もつ鍋地鶏	赤兎馬	元岡君代	元岡邦利	元岡俊枝	元岡敏雄	元岡俊之	元岡鋼基	元岡久悦	元岡正年	元岡洋三	元岡廣孝	元岡幸二	初山雄彦	森勝頼	森典生	森敏和	森英美子	森善昭	森内正徳	森内友幸	森内三夫	森内文昭	
森田昭徳	森田英征	森田寅一	森田秀敏	森田福雄	森田正好	森田満男	森田光代	盛永高男	守田龍一	守田政一	門司源吾	門司清秀	八木田達朗	八ヶ部幸子	矢ヶ部辰生	矢ヶ部登代子	安岡健	安岡清人	安田健三	安田よしこ	安高保人詞	安永アイ	安永憲男	安永澄男	安永辰雄	安永次男	安永毅	安永登美代	安永英之	安永正彦	安永光	安松良雄	安松亮一	安山隆	柳春夫	柳和宏	柳榮子	
柳幸江	矢野澄枝	矢野敏美	矢野良一	八尋美子	八尋勝彦	八尋フジ子	八尋美智代	八尋康之	山内勲	山内政一	山口源吾	山口幸男	山口昭五	山口信介	山口辰生	山口長博	山口浩	山口正和	山口武広	山崎正博	山崎繁俊	山下明敏	山下一徳	山下和義	山下憲一郎	山下浩二	山下省治	山下信隆	山下芹範	山下隆義	山下正見	山下哲一	山下波津子	山下弘	山下誠治			
山下正勝	山下正行	山下マリ子	山下美好	山下康生	山下義弘	山下礼子	山田いつ子	山田勝敏	山田勝智	山田五郎	山田繁昭	山田孝次郎	山田正	山田隆徳	山田信一郎	山手信一郎	大和郁雄	大和一弘	大和梅男	大和登	大和秀三	大和道徳	大和洋男	大和利之	大和敬久	山根範之	山根敬之	山根明	山元昭光	山元勇夫	山本功	山本英子	山本カズ子	山本義教	山本健二	山本浩一		
山本寿一	山本茂穂	山本シズエ	山本伸之	山本隆信	山本孝喜	山本武雄	山元トシ子	山元富美代	山本友樹	山本ノブ	山本登	山本ハナエ	山本廣勝	山本浩人	山本博侑	山本弘純	山元正次	山本道生	山本良彦	山本隆之	山本隆之	湯浅孝義	湯田護	豊永清秀	横内定勝	横内稔	横山秀司	横山雪子	横山明	横山昭光	山元勇夫	山本功	山本英子	山本カズ子	山本義教	山本健二	山本浩一	
山本	山本	山本	山本	山本	山本	山本	山元トシ子	山元富美代	山本友樹	山本ノブ	山本登	山本ハナエ	山本廣勝	山本浩人	山本博侑	山元正次	山本道生	山本良彦	山本隆之	山本隆之	湯浅孝義	湯田護	豊永清秀	横内定勝	横内稔	横山秀司	横山雪子	横山明	横山昭光	山元勇夫	山本功	山本英子	山本カズ子	山本義教	山本健二	山本浩一		
吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田トシ子	吉田富美代	吉田友樹	吉田ノブ	吉田登	吉田ハナエ	吉田廣勝	吉田浩人	吉田博侑	吉元正次	吉田道生	吉田良彦	吉田隆之	吉田隆之	湯浅孝義	湯田護	豊永清秀	横内定勝	横内稔	横山秀司	横山雪子	横山明	横山昭光	山元勇夫	山本功	山本英子	山本カズ子	山本義教	山本健二	山本浩一		

吉田久仁香	吉田久俊	吉田光子	吉田繁利	吉田晴希	吉田直	吉田智明	吉田富美子	吉田富弘	吉田富子	吉田亨	吉田典正	吉田輝人	吉田剛	吉田毅	吉田次雄	吉田直行	吉田千鶴子	吉田辰弥	吉田武利	吉田高義	吉田象一	吉田成彦	吉田淳	吉田茂夫	吉田幸和	吉田定一	吉田幸司	吉田健次郎	吉田慶二	吉田国江	吉田清道	吉田經子	吉田勝彦	吉田和寿	吉田和恭	吉田輝喜	吉田多文	
吉武泰徳	吉武靖文	吉武美代子	吉武雅恵	吉武正之	吉武正行	吉武政春	吉武博文	吉武弘樹	吉武久信	吉武富子	吉武敏行	吉武徳江	吉武恒木	吉武孝芳	吉武大作	吉武信	吉武公成	吉武勝三	吉武岩美	吉武勇彦	吉武敦子	吉田隆俊	吉田由紀子	吉田友好	吉田優子	吉田唯義	吉田みゆき	吉田稔	吉田光行	吉田政生	吉田正昭	吉田勝	吉田廣嘉	吉田博子	吉田秀行	吉田久也	吉田久文	
和田キヨ	和田雄治	和田延広	和田明人	脇野伸二	竜口登志貴	力丸洋介	力丸泰典	力丸益實	力丸文彦	力丸博幸	力丸久	力丸富美子	力丸繁和	力丸恭史	力丸要人	力丸明	米満勝豊	米倉一男	世戸口俊幸	吉村志男美	吉村清隆	吉村勝美	吉原誠吾	吉永雄二(平等寺)	吉永久雄	吉永正保	吉永重久	吉永圭治	吉永和義	吉永一也	吉永一枝	吉留宮ノ尾組	吉塚雅彦	芳谷秀夫	吉武律子	吉武良信		
赤間虎喜	赤間利行	赤間正孝	赤間政弘	赤間修一	赤間幸明	赤間勝海	赤間一利	赤間一敦	赤星輝男	明石洋子	赤間裕二	赤間光夫	赤間嘉孝	青木正吾	有馬信吾	間雅彦	間厚子	福津市	分林将晃	渡部國雄	渡引啓介	渡邊由紀子	渡邊祐子	渡邊睦	渡邊利行	渡邊孝安	渡邊信二	渡邊武之	安部弘基	安部重憲	麻生倫子	麻生典秀	麻生正雄	秋山賢一郎	赤間よしえ	赤間博	赤間秀敏	赤間ナツ子
伊藤善昭	伊藤末子	伊藤新一	伊藤繁治	伊藤彦	伊藤邦敏	伊藤櫛夫	伊藤巖	板谷清	石村日出男	石原幸子	石橋子工子	石橋定雄	石橋清志	石津清雄	池浦文門	池浦貞彦	池内昭寿	伊熊好喜	井口正生	伊規須初男	有吉正光	有吉久美子	天野太市	阿部豊治	安部正弘	安部ヒデ子	安部武之	安部信二	安部重憲	麻生倫子	麻生典秀	麻生正雄	赤間賢一郎	赤間よしえ	赤間博	赤間秀敏	赤間ナツ子	
入江俊介	今福清子	今橋カツ	今里幸和	今泉弘	井原靖二	井ノ畑肇	井ノ口正行	井ノ口敏明	井ノ口辰也	井ノ口嘉昭	井ノ口和子	井ノ上和嘉	井ノ上義美	井ノ上能生男	井ノ上信隆	井ノ上定規	井ノ上公雄	井ノ上清孝	因幡百世	伊藤要子	伊藤ユリカ	伊藤祐生	伊東裕子	伊藤光宏	伊藤徳	伊藤まゆみ	伊藤正隆	伊藤政明	伊藤弘基	伊藤寛道	伊藤ヒロ子	伊藤弘章	伊藤秀夫	伊藤久子	伊藤敏弘	伊藤徹雄	伊藤貴	
大原弘孝	大林正直	大庭昌利	大庭茂信	大庭愛夫	大武悦子	大嶋和敏	大嶋慶子	大神常男	大賀正敏	置鮎玄二郎	榎本博	江口之隆	占部和章	占部豊寛	占部稔	裏辻賢昌	宇宿行胤	魚住正光	魚住京子	魚住勝巳	魚住洋司	上妻藤人	上妻幸雄	上田学	上田徳五郎	上田忠正	上田幸稔	上田幸一	上田清成	上田悦子	上杉英昇	岩谷清子	岩下巖	入江正武	入江玉枝			
北崎勝海	築地原茂光	木下喜徳	木下誠	木下末雄	瓦林哲博	河野正弘	河野潤	河津利夫	川島孝志	河崎マサノ	河口由美子	川上健次	萱田彰一	鎌瀬允子	加納英明	鐘川五郎	葛城力ズエ	片山将	折目政実	折目延吉	折目和江	折目達生	小山時夫	小畑知弘	鬼石寿臣	乙藤正治	乙藤純一	小澤美知子	小澤邦弘	小澤松江	小澤清成	小澤悦子	小澤英昇	小川嗣美	小川貞夫	岡野稔		
高橋賢一	上妻宗喜	高田照子	合田静雄	高瀬秀一	高階弘昭	桑田文隆	桑田敬三	蔵野喜久男	久保田正和	久保茂文	国崎良登	国崎義敏	工藤辰江	楠原勝哉	草壁清人	木村航	木村政博	木村政則	木村毅	木村孝	木村勝雄	木原功二	城戸泰敏	城戸章博	吉武照代	吉井保彦	吉積公美	吉崎弘文	北野真市	北野友子	北野貴之	北野順一	北野芳子	北嶋博之	北嶋守国	北嶋正美		
篠崎寛	篠崎晴夫	篠崎小代子	椎木隆俊	澤田隆久	佐藤宏巳	佐藤元治	佐藤章	櫻井貞一	坂本良代	坂戸治	堺豊三郎	財前哲也	小柳善治	小島六生	小島雅之	小島正弘	小島太喜造	小嶋博子	小島久信	小島光正	小島妙子	小島義仁	小島修	小島一治	古賀波子	古賀清和	古賀康和	高山マサコ	高山健一	高山賢二	高山明久	高山晃一	高山健一	高宮明久	高見綾子			

芹野量一	芹野義則	芹野洋子	芹野安子	芹野弘次	瀬戸カヅ代	関谷喜子	薄昭代	末次則之	新ノ居操	新海シズエ	秦佳和	秦信男	城野寅夫	白石誠二	蔣田浩之	蔣田俊行	小澤孝治	清水恒男	嶋村伊和男	島本良治	嶋田和重	島田安弘	島田鉄夫	嶋田好子	島田俊雄	島田幸雄	島田謹二	島田勝雄	島田重政	嶋田敦	嶋田昭彦	波田敏廣	柴田鐵男	柴田謙介	柴田紀生	柴田英俊	篠崎恵			
坪田良雄	辻野武将	辻野勝政	津崎英憲	塚本義人	小山修治	小森信策	小袋宏	小樋知美	小高弘	玉城栄二	谷村喜四郎	谷口正明	谷川安喜	谷眞知子	棚橋泰子	田中良一	田中實	田中文明	田中伸明	田中茂明	立石君子	田島佳代子	田島匡	竹中伸一	高山芳文	高山芳	高山正子	高宮秀樹	高武信之	高木文明	高木英文	高木秀一	高木喜美子	大社千里	大賀智紀	大賀英一	添島孝士			
中野勝之助	中野勇	仲田禎子	永田瑞恵	永田久利	永田一徳	永島和幸	永島六郎	永嶋芳則	永嶋洋子	永嶋康子	永嶋ミチ子	永嶋真二	永嶋耕典	永嶋孝人	永嶋信行	永嶋順次	永嶋剛	永嶋健彦	永嶋義一	永嶋義マ	永嶋和彦	中川隆	中川雅博	中川正治	中川貴雄	中川好美	中川幸広	中川学	豊村眞策	豊福誠治	富岡繁	刀根正之	遠田倫也	寺田信正	寺嶋文好	寺嶋彌壽人				
長谷川弘子	橋本定雄	橋本定鳳	萩原哲夫	萩原政典	萩原多美子	野本俊雄	野中正人	乗富魁男	野田彰二	西村敏行	西野広行	西野康	西地善久	西住喜三郎	西住芳弘	西住辰夫	西住剛	繩田恵司	中山哲夫	中村隆信	中村博毅	中村浩	中村英明	中村久男	中村信行	中村寿美男	中村義博	中村義邦	中村キクエ	中村クエ	長浜嘉津国	中野正信	中野久雄	中野速登	中野政登	中野伸二				
花田正一	花田竹利	花田孝則	花田孝信	花田壮一	花田政伸	花田政夫	花田信芳	花田俊和	花田俊幸	花田俊一	花田秀一	花田寿	花田茂樹	花田幸夫	花田幸枝	花田貞夫	花田貞昭	花田坤一	花田健	花田勝丸	花田克子	花田和也	花田和明	花田重敏	花田延喜	花田恵美子	花田ウメノ	花田美文	花田篤明	花田彬	花田晃	八波シカヨ	八波栄子	秦善尚	秦千鶴子	秦政則	秦茂人			
花田和子	花田笑美子	花田和雄	花田玲子	花田良子	花田凌子	花田隆	花田理枝	花田喜治	花田喜美也	花田芳文	花田ヨシエ	花田義昭	花田實	花田稔	花田実	花田光男	花田雅子	花田雅春	花田正信	花田文夫	花田武士	花田弘一	花田寛道	花田浩明	花田博	花田秀文	花田長明	花田治雄	花田哲也	花田哲治	花田正彦	花田正孝	花田忠義	花田正勝	花田正己					
藤城成徳	藤島聖一	藤井豊太	藤井羊子	藤井正友	藤井隆義	藤井舍人	藤井亥壮	福嶋依子	福嶋正文	福嶋文雄	福嶋作太郎	福嶋茂喜	福嶋知義	福家裕子	深野輝幸	深田留美子	深川安次	広渡豊重	広渡繁樹	廣渡繁喜	廣島廣喜	平田博	東島貞文	原田令子	原田誠	原田彪	原田久男	原田幸二	原田利秋	原田ひろ子	原田繁實	林俊行	濱崎賢一	濱辰夫	濱俊一郎	濱仰示				
松岡信子	松岡敏實	松岡哲正	松尾和義	松尾芳彦	松尾末美	松尾法夫	松尾文雄	松尾治喜	松尾徳巳	松尾常人	松尾正行	松尾伸吾	松尾章	松尾秀五郎	松尾茂利	松尾邦夫	松尾重利	松尾英二	松尾明徳	水上隆幸	水上元日出	水上治彦	牧春夫	本村弘	堀貫太郎	古野享子	古野光久	古野克典	古閑正勝	古川光輝	古川俊治	古家愛三	船津智子	船越七郎	布施梨津子	藤原了介	藤村松江	藤丸寛	藤林正秀	藤田勝輝
八尋隆道	八尋五百香	八尋浩二	八尋教子	安永秀子	屋島和彦	八木和彦	森園清生	森博人	森修一	百田久代	元村文丸	三宅和子	宮川勝人	嶺千鶴子	溝口マツエ	三角美紀枝	水上隆幸	水上明徳	水上治彦	水上勝也	結城嘉比古	矢野凱子	山脇康雄	山脇正憲	三浦忠次	三浦喜久子	三浦一昭	的場美代子	的場孝治	松本正昭	松本弘	松本恭治	松原恒二	松原滋	松下和敏	松隈啓志	松金幹夫	松岡睦	松岡保孝	
	渡邊正勝	脇野哲夫	力丸早百合	力丸勲	吉水喜美子	吉原清次	吉野弘子	吉武隼人	吉田鐵男	吉田隆秋	吉田理史	吉田弘	吉田秀俊	吉田光代	吉田タミ子	吉田正徳	吉田武洋	吉田義男	吉田勝也	山田嘉勝	山田雄三	山本清	山脇康雄	山脇正憲	山脇凱子	山脇正憲	山脇清	山田嘉勝	山田孝雄	山田善重	山崎武司	山崎正月	山口啓子	山口益生	八尋英二	八尋祐次	八尋守邦	八尋輝紀		



ノーウイツク (鈴谷)

鈴谷はロシアの軍艦ノーウイツクである。第一太平洋艦隊に所属。二等防護巡洋艦。一九〇〇年竣工、排水量三、〇〇〇t、全長一〇六m全幅十二m、速力十九kt、ノビコフの「バルチック艦隊の潰滅」では二十五ktとあり、当時では高速巡洋艦であった。

一九〇四年(明治三十七年)八月十日黄海海戦は第一海戦と第二海戦が行われた。この海戦は旅順港からウラジオストクハへ回航するロシア艦隊を連合

軍艦鈴谷乗組 石松春蔵」とある。同名の軍艦は第二次大戦で高速重巡鈴谷があり、本誌二八四号で記した。鈴谷の事を調べていたら、次のような事が分った。

宗像市吉武の八所宮にある戦利品絵馬は、福岡県の絵馬では「鉄砲玉貼付額」となっている。額縁には「奉獻」「明治四拾参年拾貳月」「旅順警備軍艦鈴谷乗組 石松春蔵」とある。同名の軍艦は第二次大戦で高速重巡鈴谷があり、本誌二八四号で記した。鈴谷の事を調べていたら、次のような事が分った。

(続)



286

いしいただし



黄海海戦

艦隊(東郷平八郎、旗艦三笠)が黄海で発見、海戦が行われたが、ほぼ互角で沈没艦はなかった。その日の午後十七時からの第二海戦は、ロシアの旗艦ツエザレビッチが司令塔に命中弾を受け、司令長官や幕僚が戦死、指令系統がやられ、艦隊は四分五裂状態となり、隊形を乱していく。旗艦ツエザレ

ビッチは沈没寸前だったが、かろうじて、駆逐艦三隻と共に黄海を離れ、清国のドイツ租借地膠州湾に逃れ、そこで武装解除される。他に仏領インドシナまで逃げた艦もあった。日本海に逃げた

ノーウイツクはカラフトのコレサコフ湾(日本が領有していた頃は亜庭湾)で、日本艦の小型巡洋艦対馬、千歳の攻撃を受けて損傷擱坐した。その後ノーウイツクは一九〇五年八月に日本が引き上げ作業をはじめ、一年後に浮上、その後函館で修理、横須賀工廠で、本検査を受け、一九〇六年(明治三九年)八月に日本艦籍に編入された。

艦名の鈴谷(すずや)はカラフト(樺太・現在のサハリン)で、一八七五年(明治八年)ロシアと協約して日露雑居のカラフトを、ロシア領北千島と交換したものである。そしてカラフトの南半分(北緯五十度以南は一九〇五年のポーツマス条約により日本領となった。鈴谷は



主砲火を吹く

現地の河川名を日本名に改名したものである。カラフトは第二次大戦後、ソ連領サハリン州となっている。

南カラフトは日露戦争後のロシアから賠償として得たものであるが北千島は戦勝による領土の取得でなく日本領である。戦後六十八年が経過したが北方領土の返還は進展していない。他に日本領を侵害している韓国(竹島)、中国(尖閣諸島)は自国領と主張し日本への圧力をかけている。韓国は更に調子にのって「日本海」を韓国名に変えようとして、アメリカで活動をしている。理解に苦しむことが両国とも多い。

さて鈴谷は旅順警備艦として使用されたが、在籍八年目に除籍されその後売却された。

第六二一回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



うきは市 浮羽町 向 則正
ストーブに暖まる部屋何処からか毎夜出でくる大きき蠅
作者は冬蠅に驚きながらも親近感を持ってしているようだ。
二句は助詞をつけ(へ)部屋に。

北九州市 八幡西区 豊田 光子
大岩の窪みの水は目洗い水石仏幾体蔦かづら這ふ
目洗い水の呼び名が面白い。大岩と石仏の位置関係が
分かる景色が見えてくる。

宗像市 土穴 山本 静子
五十米掘りし井戸水あさなさなコップ一杯ごくごくと飲む
美味しそうな水。二句以下(へ)掘りたる井戸に汲む水
を(朝あさに飲む)などと調べをゆるやかにしたい。

宗像市 日の里 秋吉 嘉範
傘寿なる欲しがりません勝つまでは時代に生きた仲間去りゆく
戦時中の厳しい時代を共に過ごした作者と友はもう
八十代。仲間の減る寂しさが込められた歌。

宗像市 多禮 早川 祥三
新薬の香りしで振る左繩幸より相わす祈る形して
状況がよく分からないが、祈る形に繩をより合わせる
という発想は魅力的。

福津市 中央 池浦千鶴子
子の呉れし奈良の土産の菓子箱の若草色を捨てがたく持つ
子への感謝と美しい色の両方で菓子の箱を捨てられな
い作者に読者も共感する。

福津市 星ヶ丘 佐々木和彦
竹林の落ち葉にちらつく日の光風吹くたびに処をかへぬ
竹が風でゆれるたびに陽の差す箇所が移るのを捉えた、
作者の目がとても良い。

福津市 若木台 山崎 公俊
築かれし仮本殿は一本の神樹と磐座囲む石垣
宗像大社の仮本殿の簡素な佇まいがよく詠まれている。
三句の助詞を(へ)に。

宗像市 日の里 大和美由紀
湯気の立つ熱き甘酒もてなされ庭園に咲く寒牡丹眺む
季節感のある歌。詳細な描写のある甘酒に焦点を合わ
せ三句切れにしては如何。

宗像市 池田 森 龍子
七草粥作るも一人食ぶるのも独りにあれど野に芹を摘む
季節の行事を大切に守り、野に芹を摘む作者。寂しさが
滲むが、清々しい。

福津市 若木台 野間 精一
素心蠟梅と千両の朱実を瓶に差しわが家の玄関寒も華やぐ
寒に入った玄関の花を樂しむ作者の心の豊かさ。結句
は(寒を華やぐ)に。

宗像市 田久 巻 桔梗
峠みち越ゆと来つれば没らむ陽のひかりの中にすすき穂の老い
ほほけた穂薄を薄の老いと表現したところに作者の思
いが感じられる。二句は(越ゆると来れば)に。

選者詠

睡眠の淵よりうかび若布にも魚にもあらぬヒトわれになる
はなやかな舞台の余韻のこる身で帰途に買ひたり薔薇の香の紅茶

第六〇四回

俳句作品集

- 宗像市 武丸 白土 凌一
雪降りて父の墓前で涙する
宗像市 多禮 早川 祥三
書初濃淡にあるひとのいろ

3月祭事暦
1・15日 月次祭
午前10時〜 高宮祭 第二宮・第三宮祭 宗像護国神社祭(1日)
午前11時〜 総社祭 浦安舞奉奏(1日) 豊栄舞奉奏(15日)
4日 氏貞公墓前祭
午前11時〜 於=氏貞公墓前 (宗像市上八) 本年は神式で斎行
19日 松尾神社祭
午前11時〜 於=境内松尾神社
21日 皇霊殿遷葬式
午前10時〜

編集後記

多くの日本選手が活躍したソチ冬季五輪が閉幕。奇しくも開幕の二月七日は「北方領土の日」と重なりました。私はこの日、県内の青年神職らと北方領土返還促進県民集会に参加し、日本の「固有の領土」である北方四島(歯舞・色丹・国後・択捉)、その存在や歴史を多くの方々に知っていただきたい一念で活動してきました。毎年、神郡宗像に秋の訪れを告げる菊花大会、その恒例の総会が過日行われ、事務局としてお世話をさせて頂きました。その際、講師の先生が「花を愛すれば、良い花が咲きます。愛すれば状態が気になり、自然と手を掛ける。だから花を愛して下さい」と語られていたのが印象的でした。毎年出品頂く菊愛好家の方達も、国を愛し、花を愛し、菊を育ててきたのでしょうか。▼存知の通り、国花は「桜と菊」です。福岡の桜の開花予想は、寒さと春分の日、今月の二十一日頃だそうです。菊の前にも一つ一つの国花「桜」を愛でて見てはいかがでしょうか。(鈴)

発行所 宗像大社社務所・宗像会
住所 〒811-1350 五福岡県宗像市田島三三三
電話 (0940)621-3311(代)
発行人 葦津幹之
編集人 大塚宗延・鈴木祥裕
制作・印刷 ゼネラルアサヒ
毎月1日発行 定価1年送料共 1,000円